

## 西原の姿②

前回、町史では「西原の自然の姿」を映し出す資料を収集していることについて述べ、戦前と戦後の空中写真を紹介しました。今回はその写真をもうちょっと詳しく見てみましょう。

写真は、昭和二〇年一月の製糖工場付近です。戦前の工場は、我謝入口からすぐのところにあります。明治四〇年に沖縄県糖業改良事務局（トーマチクと呼ばれていた）の製糖工場として操業し、その後民間に

払い下げられた経緯があります。同時に、周辺敷地は沖縄県糖業試験場として再発足しています。写真でもその圃場のようすが確認できますよね。「試験場（跡）地」という地名は、戦後バス停名にもなっているのですが、ご存知の方も多いかと思います。また、この敷

地には、クワデーサーと並木で有名な我謝馬場があり、人々の娯楽の場となっていました。しかし、圃場建設で自由に使用できなくなつたため、大正二年、字翁長に西原村馬場が新設されました。意外にも、西原は競走馬を所有していた人々が多かつたようです。

工場には、大きなクムイ（用水池）が建設され、工場周辺には、これまた大きな社宅や、他市町村から職を求めて移り住んだ人々の集落（会社又前と呼ばれた）ができあが

つていました。現在の字兼久は、こうして誕生したのでですね。

当時は、やはり歌にも歌われたほど、民家や商店が建ち並ぶ、にぎやかなところだったといえます。今では、住宅が密集する兼久・美咲区となっていますが、この行政区の成り立ちについては、次回にお話しすることになります。お楽しみに。

（注）写真は一九四五年一月三日・国土地理院所蔵

